

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会誌
第31号
2016年2月発行



線の上から落ちないように…そ〜っとそ〜っと（2歳児クラス）

もくじ

CONTENTS

45周年記念事業報告

・・・2

児童施設トピックス

・・・4

芳香会、日本を越えて

・・・5

実務研究発表会

私達だから出来る

リハビリを目指して

・・・3



芳香会活動報告 ・・・6

芳香会スケジュール ・・・6

編集後記 ・・・6

2011年3月11日に発生した東日本大震災において被災された皆様に、改めて心よりお見舞い申し上げますとともに、当法人も引き続き復興に向けた支援活動に取り組んでまいります。

四十五周年記念事業

法人創立四十五周年を記念して、今年度は三つの行事を企画し実施致しました。

第一弾「地域づくり講演会」

芳香会創立四十五周年記念事業の第一弾として、昨年六月十三日（土）に、社会福祉法人佛子園の雄谷良成理事長を講師にお招きし、「社会福祉法人から発信する地域づくり講演会」を開催しました。佛子園は、石川県内で半世紀以上にわたり福祉事業を展開しております。そして、「どんな人にも必要とされて主体的にかかわれる持ち味があり、それはまさに人と人がかわり合う中から見出されていく」という信念のもと、社会福祉の立場から地域づくりを実践されております。雄谷先生から、佛子園の実践例を交えながら地域づくりについてご講演いただきました。

今、社会福祉の領域を超えて、社会全体で社会福祉法人のあり方が問われ、議論されております。社会福祉法人が「確実に変わらなければならぬ」という状況下で、「では、どのように変わらなければならないのか？」という問いに、雄谷先生のご講演は明確に針路を示してくれるものでありました。

創立五十年、さらにその先に向けて、すべての人が尊重され、主体性をもってかわり合



える地域をつくるのが社会福祉法人の使命であることを肝に銘じ、これからも実践を展開していきます。

芳香会社会福祉研究所

研究主幹

酒寄 学

第二弾「ありがとうコンサート」

九月二十七日（日）に「ありがとうコンサート」を開催しました。午前の部は、以前青嵐荘ケア・アシスタンスに勤務され、現在歌手としての活動準備をされている「遠井未弥」様に日本一の磯節を披露いただきました。また毎週日曜日に当法人の交流ホームをご利用いただき、グループで活動されております「堀口ゆきおと音空間」の皆様にも、懐かしい童謡を演奏いただきました。午前の部最後は、施設のご利用者様の演奏で、青嵐荘つくし園和太鼓「和音」を力強く披露いただきました。

地元の上大野地区、稲宮地区からお越しいただいた老人会の皆様にも、とても楽しんでいただけました。午後の部は、午前同様に遠井様に磯節を披露いただき、その後、地元の結城市で薬物依存回復施設をご利用の方々と結成された「喜組」の皆様に、力強い和太鼓を演奏いただきました。午後の部に参加いただいた地元の七五三場地区並びに尾崎地区の老人会、婦人会の皆様からは心温まる盛大な拍手をいただきました。会場は熱気に包まれ、大盛況のうちにコンサートは終了しました。

芳香会病院青嵐荘療育園

副施設長 窪

誠勇



第三弾「司法福祉講演会」

十二月十二日（土）につくば国際会議場にて『司法福祉講演会』を開催しました。「罪を犯した人の更生」就労支援の必要性和その効果」と題し、四名の講師の方々をお招きし、約百名の方に聴講頂きました。

基調講演として、厚生労働省社会・援護局総務課課長補佐 田中健太郎氏から「犯罪をした人の更生における就労の必要性和その効果」と題し、更生と就労の関係性と実際の事例から本質的な犯罪減少のためには更生には時間がかかる、成長を見守るといった社会の少しの余裕が重要だと、ご講演頂きました。実践報告として、法務省茨城就業支援センター統括保護観察官 大日向秀文氏から「茨城県における刑務所出所者等に対する就労支援の実情」と題し、保護観察所が行う就労支援について数値を交えて実情をご報告頂きました。講演として、社会福祉法人恩賜財団済生会理事長 炭谷茂氏から「罪を犯した人の就労の促進」環境福祉事業の活用」と題し、ソーシャルファームの効果と興味深いご自身の実践をご講演頂きました。実践報告として、ふる里自然農塾塾長 近澤行洋氏「農業を通じた自立」と題し、『暮らしと命』をキーワードに実践のご報告を頂きました。

約三時間半と長い講演会でしたが、更生に就労がどのような効果をもたらすのか、そして私達が社会の一員として出来ることを考える貴重な講演会とすることが出来ました。

茨城県地域生活支援センター

係長 加藤 めぐみ



実務研究発表会

十二月八日（火）とねミドリ館にて実務研究発表会を開催しました。今年は例年行っている実務研究発表に加え、日常の支援業務の中で行っている創意工夫について発表する『実践における創意工夫発表』を行いました。今回は二つの実践発表について、それぞれ発表の概要をご紹介します。

発表①

ルンバ導入による業務改善

青嵐荘療護園では今回、利用者居室の清掃を従来よりも確実に、かつ定期的に実施する事が課題となりました。そんな矢先、宇留野理事長からのロボット掃除機『ルンバ』導入の提案と寄付があり、導入をするに至りました。



ルンバを使用して居室の清掃をするにあたり、スケジュールの管理や事前準備の簡略化、清掃実施状況の把握を確立し、職員がルンバを使用して清掃をする事が負担にならないように様々な工夫を取り入れました。二月で本格導入してから一年が経過しますが、現在ではルンバでの清掃が日常業務に自然に実施されるようになり、現場職員だけでなく、環境整備担当職員の業務負担も軽減されました。ルンバを使用して床の清掃が安定して実施でき、職員は今まで使っていた時間をテレビや床頭台周りの清掃に回す事も可能になりました。ロボットを導入しての業務改善に当初は不安も感じていましたが、今では施設を運営していくにあたって、ロ



ボット掃除機は重要な戦力の一つになっていきます。今後も様々なロボットを活用しながら、日常業務の見直しと改善を行っていきたいと考えています。

青嵐荘療護園

副主任支援員 永澤 典之

発表②

安心して過ごせる空間作り

今回の「創意工夫発表」では、特別養護老人ホームにおいて介護職員の多くが抱える問題であったご利用者の転倒予防対策について発表しました。談話スペースを設置した事でご利用者の転倒事故が減少した事や、ご利用者の疲労が転倒の原因なのではないかといった仮説を立て、談話スペース設置までの流れについて報告しました。結果として転倒事故は減少し設置当初、



私自身目的は達成されたと考えておりました。しかし状況を再認識する中で、ご利用者の視点を中心に考えてみると、転倒しない事がご利用者にとっての満足とは言えないのではないかとの考えに至りました。

特別養護老人ホームが生活の場であるご利用者にとって、談話スペースは転倒予防の為の空間ではなく、生活の場であります。その事を考えると、今回のテーマでもある「安心して過ごせる空間」について、さらに実現を目指し、取り組んでいかなければならないと実感致しました。またその事を気づかせてくれたのが、今回の発表の機会でありました。

青嵐荘特別養護老人ホーム

主任介護員 石川 哲宏

私達だから出来るリハビリを目指して！

芳香会内専門職部会のご紹介です♪

法人内のリハ専門職は、理学療法士六名（内非常勤三名）、作業療法士三名、言語聴覚士二名（非常勤職員）で、合わせて十一名が勤務しております。これらリハ専門職の配置事業所は、一名或いは少人数体制で業務にあたっています。所属事業所だけではなく、横の繋がりを作り、リハ専門職の連携を強化する事で、多事業所の状況把握・情報共有とリハ専門職全体の知識・技術向上を目指し、平成二十五年度にリハビリテーション専門職の会を発足しました。発足以降、勉強会を定期的に行い、その内容は他事業所のリハビリ状況について、研修復命や摂食リハビリについての学習会等を実施してきました。

福祉施設のリハビリは、体の維持・改善だけではなく、施設生活や社会生活の維持・向上を目指すことも重要です。医療機関とは違い、ご利用者の変化は非常に小さいですが、継続して支援できることが福祉施設の良いところです。

今後もしハ専門職だけではなく、他職種とも連携を図り、個々のニーズに応えられるように支援して行きたいと思っています。また、地域住民に対するリハビリ活動支援（健康づくり体操等）にも積極的に参画し、心身の活性化に寄与して行きたいと思っています。

青嵐荘つくし園

リハ係長 吉田 真純
（理学療法士）



からだをうごかさう！



全般の基本的な動きを身につけやすく、体を動かす遊びを通して、動きが多様に獲得されるとともに、動きを繰り返し実施することによって、動き方が上手になる洗練化も図られていきます。また、意欲を持って積極的

に周囲の環境に関わることで、社会性の発達や認知的な発達が促され、心と体が相互に密接に関連し合いながら総合的に発達していく時期です。』と載っています。ぜひ、ご家庭でも休みの日などに体を動かす機会を作ってあげてください。

続いては、たま保育園で人気の遊びをご紹介します。

【しっぽ取りゲーム】

①帽子や縄跳びなどをしっぽに見立て、腰につけます。②しっぽを取られないように逃げ、沢山しっぽを取った人の勝ち＊制限時間を決めたり、逃げる範囲を決めると面白いですよ。

【目的地までよいどん！】

① 大人が木や鉄棒、建物など目的地を決めて「よいいどん！」で走ります。② 「今度は〇〇まで！」と目的地を変えて走ります。③ 目的地や動き（スキップやケンケンなど）を変えながら、繰り返し遊びましょう。

【はっけよいのこった！】

①二人組になり、手のひらと手のひらを合わせ、て押し合います。「はっけよーいのこった!」「一、二、三……十!」とカウントします。②次は、手を使わず体と体で。③背中合わせでおしりとおしりで。＊年齢が小さいお子さんの場合は、大人が子どもの力を受けたり、大きいお子さんはお相撲ごっこに発展したりすると面白いです。

(参考文献…ひかりのくに「冬の外遊び」)



輝く瞳の営業マン達



十二月十五日(火) 年長組の子どもたちは、小学生との交流会に出かけてきました。いつもは一年生が行う、お店屋さんごっこにお客さんとしての参加だけでしたが、今年はなんと一緒に



店を開かせていただきました。年長組の子どもたちは四月からお昼寝がないので、その時間を使い「まず何を作るか」から子ども同士で話しかって決めて行きました。

ドーナッツも作りたい、ジュースも作りたい、ごはん系の食べ物も作りたい・・・子どもたちの発想は豊かです。そこで、まとまった答えは「コンビニエンスストア」でした。つぎに「材料は何があるだろう」



が、きちんと自分たちで代
替えの品をその場で考えて購入することができ
たことに驚きました。子どもたちは、普段から
色々な物を様々な視点から見て、発想が豊かに
育っているのだなと感じました。そして、やっと
商品作りに取り掛かることが出来ました。小学
生の子たちは、皆で同じものを作って色で個性
を表していました。が、保育園の子たちは「コンビ
ニエンスストア」を想像して、個性豊かな品物が
出来上がっていました。自分たちの自信作を小
学生のお兄さんお姉さんたちに買ってもらいた
く、一生懸命商品をアピールしている姿は、どの
子も「目がキラキラした営業マン」でした。



芳香会では、平成二十二年度からEPA（経済連携協定）に基づく介護福祉士候補生を受け入れており、現在はフィリピンから四名、ベトナムから二名の計六名のEPA候補生が働いています。次代を見据えて様々な国の方々と絆を結ぶ様子をご紹介したいと思います。

茨城県EPA介護福祉士受入施設連絡協議会



十月二十四日（木）に茨城県内でEPA介護福祉士並びに候補生の受入施設が集まり、つくば市にて定期勉強会を行いました。茨城県内でも受入人数が年々増えはじめ、今年度は二十二名の候補生が就労を開始しました。現在、県内では四十二名の方が日本の冬の寒さに負けず頑張っています。

「学ぶ心さえあれば、万物すべてこれ我が師である」の通り、外国の方と働くことで、学ぶことも沢山あります。国の政策として「福祉」の概念のない外国の方に、何を求めるのかではなく、私たちが何を学ぶかが重要となります。私自身受入れを経験することで、今まで当たり前のように感じてきたものも、更なる気づきを与えてくれる素晴らしい存在であることを学びました。私たちと違う文化や風習を持つ方を受入れるということではなく、共に生きることとして考えるようになりました。それは職員も同じで、外国の方と共に働く存在として認めている



環境に変化してきたと感じています。勉強会には新規で受入れを行う施設にも参加感じています。勉強会には新規で受入れを行う施設にも参加頂き、現在の状況や不安を話し合いました。既に受入れている施設の経験や対策を真剣に聞いていました。

元厚生労働副大臣の永岡桂子様にも御参加頂き、技能実習生や世界から見た日本について等詳しくお話を頂き、多くを学ぶことが出来た素晴らしい時間になりました。

会発足から三年が経ち、当初の目的である「施設間のつながり」も少しずつ広がり始めました。今後の活動は、福祉の職場が魅力ある就労環境になるよう貢献していくことです。魅力ある仕事であれば、言葉ではなく心から学びたいと思えるようになるでしょう。

青嵐荘特別養護老人ホーム 富張係長



ウィンターフェスティバルについて



古河市内では約二千五百人の外国人登録者が生活しており、海外との人的交流が活発な今、「異文化共生・国境を越えた交流」が求められ、様々な国際交流のイベントが開催されています。その一つとして、十二月十三日（日）には「まぐら」の古

河合併十周年記念ウィンターフェスティバルが開催され、当法人でもEPA候補生たちと一緒に参加してまいりました。外国人の方による日本語スピーチや民族衣装ショー、民族舞踊の実践、日本の着物体験コーナー等の様々な催しのなか、古河中央ロータリークラブのスペースをお借りして「記念写真撮影」と「ふれあい囲碁」を行いました。ふれあい囲碁とは、囲碁盤と碁石を使用する使用する石取りで、ふれあい囲碁の簡単なルールを、英語のパンフレットで案内したことで、ベトナムや中国、イスラエル等の若者たちに楽しんでいただく事ができました。「ここは置いているの？」とお互いに話ながらゲームを進め、石を片手に真剣に考え込む姿が見られました。当法人のEPA候補生たちも、日本の着物を体験させていただき、とても充実したひと時となったようです。初めて体験した着物に、「帯のきつさに驚きました」と言いながらも、楽しく古河甚句の音色にあわせて踊っていました。今年度に来日したベトナム人候補生にとっては、初めての日本の冬となりましたので、寒さを乗り越えるためのモチベーションアップにつながっていれば幸いです。



東京オリンピック開催に向けて、わが国では国際化の大きな契機を迎えました。生活の様々な場面に外国との接点がある世の中、ぜひ皆さんもこのような異文化に触れる機会を持ち、交流の輪を広げてみてはいかがでしょうか。

青嵐荘ケア・アシスタンス 川島事務員



芳香会活動報告



芳香会ふれあい囲碁交流 みんなでワイワイなやまやま

芳香会で大流行のコミュニケーションツール「ふれあい囲碁」を用いた交流について今号ではご紹介させていただきます。



十二月七日（月）、地元老人会「楽寿会」の方々と結城地区高齢者事業所合同による「ふれあい囲碁交流会」を開催致しました。交流会では共同作業にて刺し子による囲碁盤作成とふれあい囲碁の対局を行いました。刺し子とは手芸のひとつで布地に糸で線を描くように刺繍することです。囲碁の碁盤目をカラフルな糸を使用して刺繍したことで、とても色鮮やかな仕上がりととなりました。また、作成した囲碁盤を使用しての個人戦を開催しました。

ふれあい囲碁は、あらゆる垣根を越えたコミュニケーションを図るツールです。実際には勝負に夢中となり白熱した対戦となりました。これからも、ツールとして活用し、地域の方々の関わりを深めていきたいと思えます。

結城デイサービスセンター 青嵐荘 沼田相談員



芳香会では昨年、一般社団法人 IGO コミュニケーションズの講座を受講し、現在芳香会が行う活動のツールとして積極的に活用しています。

今回は法人内の職員の懇親も兼ねて約三十名の職員と、IGO コミュニケーションズの原氏をお招きし、十二月二十一日「ふれあい囲碁大会」を開催しました。大会では団体戦、個人戦を行い非常に盛り上がり、会場が熱気と笑顔にあふれ、参加した職員間の交流が図れました。また、楽寿会（老人会）、青嵐荘養護老人ホーム、青嵐荘結城デイサービスの皆さまに作成いただいた囲碁盤が大会に花を添えてくれました。

今後さらにふれあい囲碁を活用し、福祉・教育・医療の方々、そして地域の方々との「ふれあい」を拡げてまいります。みなさんも是非ふれあい囲碁に触れてみてください！

茨城県地域生活定着支援センター 加藤係長



芳香会スケジュール

二月	十六日	職員対象お楽しみ抽選会
二月	二十三日	被災地支援報告会
三月	三日	新任&随時採用職員
三月	四日	合同研修会
三月	十六日	法人内ヒアリング
三月	二十六日	理事・評議員会
三月	二十九日	入社式・辞令交付式
三月	下旬	第三者委員会

編集後記

先日、古河市環境出前講座にて、家庭の環境問題の取り組みについての講話をして頂きました。聴講に参加した職員は、わかりやすく日頃からの意識と行動が重要だと再認識したそうです。今回は、当法人職員で古河市環境市民委員のメンバーが企画してくれました。

（光）

初詣に地元のパワースポットの神社を訪れました。新年から心身ともに清められ、今年一年の力を頂きました。あとは自宅を清めてパワーを発揮しなければなりません。そろそろロボットの力を借りようかと検討しています。（加）

ふれあい囲碁はとても面白いツールです。今年の予定者研修会で司会の仕事を忘れて本気で勝負に興じてしまいました。機会があればアンバサダーにも・・・



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。